



2010年3月10日放送

漢方頻用処方解説 五苓散②

慶應義塾大学 漢方医学センター 准教授 渡辺 賢治

前回は五苓散の応用として、感冒、頭痛についてお話ししました。

頭痛は水毒徴候を伴うものに用います。特に女性の月経前の頭痛には有効だという話をいたしました。当帰芍薬散にも五苓散の成分が入っているのですが、日常診療で、当帰芍薬散だけでは十分に水毒症状が取れないと思われた場合には、当帰芍薬散をベースにいて、さらに五苓散を月経前に加えるなどということを行います。もしくは水毒がひどければずっと五苓散をかぶせても構いません。中には水毒症状がなかなか改善せずに五苓散を一日四回服用する場合があります。

もう一つ頭痛に頻用される処方として呉茱萸湯があります。呉茱萸湯は冷えから来る片頭痛で、典型例は冷えた後、首筋から張りが突き上がってくるような感じがした後に頭痛が起こるものです。こういう難治の場合には、日常生活で水を貯めこむようなことをしていないかをチェックして是正することも重要です。例えば冷たい水を飲んでいないか、体を冷やしていないか、運動をして循環をよくする努力をしているか、などをチェックし、生活指導をします。生活がきちんとしていないとせっかくの漢方薬が効かないこともありますので注意が必要です。

応用の三番目は二日酔いです。ビールなどはアルコール度が高くないので、かなりいける、という人もいるのではないのでしょうか。例えばビール大瓶6本飲むとそれだけで4リ

ツトルです。飲んだ割にはトイレにはいかない、というのは誰もが経験することではないでしょうか。すると翌日、頭がボーっとして重くなる。これは典型的な水毒の症状です。二日酔いに黄連解毒湯は有名ですが、こちらはまだ酔いが残っていて、赤ら顔が残っていて、顔に熱感のある場合です。また、黄連解毒湯はお酒を飲む前に飲んでおくと酔いが回りにくくなります。五苓散は頭がボーっとして働かない場合です。五苓散と黄連解毒湯を合わせて飲んで効果的です。

次の応用は熱中症です。夏のゴルフなどで外が暑いものですから冷たい水ばかり飲んでるとむくんできて、体がだるくなります。暑いとどうしても冷たい物を飲みたくなってしまいますが、胃腸は冷やしてはいけません。できれば暖かいもの、または最低、室温のものを取るように注意してください。五苓散を服薬する時も冷たい水で飲むことがないように。原典の指示にもありますように、重湯で飲むのが理想ですが、現実にはなかなか難しいことも多いと思います。せめて暖かいお湯で飲むように指示してください。この他、帯状疱疹などの水泡性疾患やクインケ浮腫などにも局所の水毒ということで五苓散が用いられる場合もあります。

最近の研究で、五苓散の作用機序が少し明らかになってまいりました。五苓散は漢方薬理上、「利尿剤」というジャンルに分類されます。通常利尿剤が、人体が脱水になっている場合でも、投与すると尿量を増やし、脱水を助長するのに対し、五苓散などの利尿剤は、人体が脱水になっている時は尿量を減らし、脱水を緩和させる働きをします。ここが多成分から成る漢方方剤の面白いところです。両者の作用を比較すると、五苓散には利尿剤ではなく利尿剤というネーミングがぴったりきます。

これを現代科学で説明することは困難でしたが、最近になってアクアポリン (Aquaporin, AQP) という蛋白が見つかり、いろいろな謎が解明されてきました。アクアポリンとは、細胞膜に存在するタンパク質ですが、構造上小さなチャンネルを作っています。このチャンネルは水分子のみを選択的に通過させることができるため、細胞への水の取り込みに関係していることが分かってきました。発見者のピーター・アグリ氏は 2003 年のノーベル化学賞を受賞しています。

五苓散は、このアクアポリンという水チャンネルの分子に作用することで、「利尿」作用をしていることが分かってきました。五苓散は、全身のアクアポリンを介して水の適正分布に関与しているのではないかと考えられ、尿細管だけに作用する利尿剤とは異なった薬理作用を示すのだと思われます。このため、嘔吐や下痢といった水の不適切な分泌や、腸管内の過剰水分など不適切な水の分布に対して、五苓散は効果があるのではないかと考えられます。五苓散の最近の応用として、透析患者さんの不均衡症候群にも使われていますが、五苓散の構成生薬の蒼朮・猪苓・茯苓には、このアクアポリン阻害作用があることがわかっており、水分の急激な移動が抑制されます。千葉の木元博史先生は、五苓散を脳梗塞後の脳浮腫の予防に使って効果を挙げていますが、これもアクアポリンの作用で説明がつく

ものです。

『類衆方広義』では、目の病気への応用が書かれています。口渇、尿不利があるような目の疾患に対して用いる、とあります。また、小児の陰頭および陰のう水腫で赤く腫れて小便が出渋る場合にもいい、とあり、非常に応用範囲の広い薬です。今後もまだまだ新しい応用がされるものと期待します。

五苓散の加減法には茵陳五苓散、柴苓湯、胃苓湯などがあります。茵陳五苓散は五苓散に茵陳蒿が入ったものです。むくみを伴う黄疸などに用います。柴苓湯は小柴胡湯と五苓散の合方ですが、腎炎、ネフローゼなどに用いられます。胃柴苓湯は平胃散と五苓散の合方です。胃腸が弱くてむくみやすい人に応用されます。

症例をお示ししたいと思います。

27歳女性 主訴：月経前の気分の落ち込み。

月経は順調であるが、2-3年前より、月経前になると気分が非常に落ち込む。頭重感・嘔気を伴う。車酔いをする。この車酔いというのが非常に重要で、普段西洋医学の診療ではあまり聞きませんが、水毒症状の一つです。日ごろより胃腸はあまり丈夫でなく、ストレスで痛む。月経前になるとむくみやすくなる。軽い頭痛を伴うこともある。月経困難はない。尿量に関してはあまり意識をしておらず明確な返答はない。

典型的な月経前症候群の患者さんです。

身長 158cm、体重 48kg。顔色普通、体格やや痩せ。舌歯痕あり。脈は沈で細。腹力やや虚。瘀血の圧痛を認めず。当帰芍薬散と安中散を処方。

2週後、月経はまだないので分からない。6週後、今回の月経前に少し気分は楽になったようだが、頭重感はまだある。月経1週間前から五苓散を前方に加えて服薬するように指示。その後徐々に落ち込みも改善し、頭重感も取れて、胃腸の調子もよくなってきました。

当帰芍薬散にも五苓散の成分は含まれているのですが、それを増強する意味で加えることがよくあります。この患者さんではもう一つ重要なポイントがありました。お酒はいくらでも飲める、という人で、ビールをよく飲むとのことでした。ビールは水分がたまりやすく体を冷やすので、控えるように注意しました。特に月経前にただでさえむくみやすいのに、ビールはなるべく飲まないように注意をしております。生活の注意は非常に重要です。

これから花粉症の季節になりますが、花粉症も鼻粘膜の充血・浮腫を伴う局所の水毒です。アルコール、冷たい飲み物は花粉症の症状を悪化させますから必ず注意をしてください。花粉症によく用いる小青竜湯も水毒をさばく作用がありますので、その働きを助けるような生活上の注意が必要となります。

五苓散の話をお聞かせいただきました。応用範囲が広く、副作用もあまりなく、飲みにくいなどのクレームも少ない薬です。是非とも応用を広げていってください。